

SYOHEI ニュース 令和6年4・5月号

新任医師の紹介

4月1日付けで総合水沢病院に澤陽平医師が着任いたしました。循環器内科医長として勤務されています。



令和6年度義務履行勤務

常勤医師

村澤哲也医師：総合水沢病院：専攻は消化器外科
澤陽平医師：総合水沢病院：専攻は循環器内科

週1回診療応援勤務医師

佐藤一輝医師：総合水沢病院：専攻は神経内科

令和6年度奨学生1名を採用

今年度は、医師養成事業奨学生を1名採用しました。私立大医学部生です。

奨学生の採用は、令和元年に制度改正以降、5年連続で8名を採用しています。

年度別貸付数

区分	R2	R3	R4	R5	R6	合計
貸付数	3	1	1	2	1	8

令和6年度医師養成事業スタッフ紹介

医師確保推進室長 桂田正勝 (経営管理部長)
同室 主幹 浦川敏明 (経営管理課長)
同室 主任 渋谷翔汰 (経営管理課主任)
同室 室員 尾形盛幸 (経営管理課 事務補助員)

奥州市立2病院、3診療所紹介

総合水沢病院

水沢大手町 3-1

院長 菊池 淳

常勤医師 13 名

標榜科：内科、小児科、循環器内科、外科、整形外科、泌尿器科、精神科、麻酔科、神経内科、耳鼻いんこう科
一般病床 95 床(運用病床) 感染症病床 4 床



国保 まごころ病院

胆沢南都田字大持 40

院長 伊藤 正博

常勤医師 6 名、歯科医師 3 名

標榜科：内科、小児科、循環器科、消化器科、外科、整形外科、歯科口腔外科
病床数 一般病床 48 床



国保 前沢診療所

前沢字立石 180-1

所長 鈴木 順

常勤医師 1 名

標榜科：内科、呼吸器内科、循環器内科、



国保 衣川診療所

衣川古戸 48-3

所長 近藤 克幸

常勤医師 2 名

標榜科：内科、リハビリテーション科

病床数 一般病床 19 床



国保 衣川歯科診療所

衣川古戸 52

所長 佐々木 健

常勤歯科医師 1 名

標榜科：歯科、小児歯科、



奥州市の桜の開花

奥州市は4月6日、水沢公園内の桜の開花を宣言しました。今年は特設の「花見食堂」が5年ぶりに営業し、花見客を迎え入れています。



大谷翔平選手の成績ボード (R5.4.25 現在)

試合 26 打率 371 本塁打 6 打点 16 盗塁 5

4/13 MLB 日本人最多タイ本塁打 175 本達成

4/13 日米通算 1,000 安打達成

4/22 MLB 日本人最多本塁打 176 本達成

SYOHEI ニュース発刊の経緯

令和2年4月に医師養成事業の養成医師・奨学生(含家族)の皆様へ、奥州市及び奥州市立医療施設を知っていただくための情報紙として、毎月下旬に発行することとし、市の広報誌「広報おうしゅう」と共にお送りしています。なお、市医療局ホームページに、バックナンバーを掲載しています。

医師招聘と当市出身の大谷翔平選手の名を絡めて「SYOHEI ニュース」と命名しました。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和6年4月25日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833

医療局 HP にバックナンバー掲載中

発行ナンバー 49 号

風の又三郎像・・・種山高原 星座の森・・・ときを越え受け継がれるもの

奥州遺産No.8 広報おうしゅう平成23年5月号

宮澤賢治が愛し、数々の作品の舞台となった種山高原。人間の生き方を考え、宇宙と交感ができる場所でもあった。

種山山頂への中腹、星座の森コミュニティ広場に据えられる「風の又三郎像」。日本芸術院会員・中村晋也氏の作である。賢治と江刺の風土が生んだ風の又三郎を蘇らせたい。賢治とその作品を愛する江刺の人々「風の又三郎像を建てる会」(富沢強一会長)によって、



緑の牧野と青空に包まれ、今にも飛び立ちそうな又三郎像

宮澤賢治生誕100年に当たる平成8年5月に建立された。緑の牧野と、続く青空のなかに凜と立つ又三郎像。真っすぐ北を見つめるそのいでたちは、今にも飛び立ちそうな感じさえさせる。賢治が探し求めたイーハトーブ(理想郷)。それは、この地にあったのかもしれない。又三郎が起こす高原を渡る風は、訪れる者を賢治の世界へといざなっていく。

『風の又三郎』 宮澤賢治作

どっどど どどうど どどうど どどう

青いくるみも吹きとばせ すっぱいかりんも吹きとばせ どっどど どどうど どどうど どどう

谷川の岸に小さな学校がありました。教室はたった一つでしたが生徒は三年生がいないだけで、あとは一年から六年までみんなありました。運動場もテニスコートのくらいでしたが、すぐうしろは栗の木のあふるきれいな草の山でしたし、運動場のすみには ごぼごぼ つめたい水を噴く岩穴もあったのです。

さわやかな九月一日の朝でした。青ぞらで 風がどうと鳴り、日光は運動場いっぱいでした。黒い雪袴をはいた二人の一年生の子がどてをまわって運動場にはいって来て、まだほかにだれも来ていないのを見て、「ほう、おら一等だぞ。一等だぞ。」とかわるがわる叫びながら大よろこびで門をはいって来たのですが、ちょっと教室の中を見ますと、二人ともまるでびっくりして棒立ちになり、それから顔を見合わせてぶるぶるふるえましたが、ひとりはどうとう泣き出してしまいました。 というわけは、そのしんとした朝の教室のなかにどこから来たのか、まるで顔も知らないおかしい赤い髪の子供がひとり、いちばん前の机にちゃんとすわっていたのです。そしてその机といったらまったくこの泣いた子の自分の机だったのです。 (略)